

## 「尊敬感謝」

一宮市立南部中学校3年

佐々木 アヤ香



二〇〇八年十月十七日～十九日の三日間、私は国立代々木競技場第一体育館で行われた全日本ジュニア新体操選手権大会に出場していました。個人ではフープ、ボール、ロープ、リボンの四手具で競い、さらに団体のメンバーでもあったので、最終日の団体の演技までその輝いた場所にいることができました。夏からずっと足の付け根の痛みを感じながらも毎日練習に励んできました。その結果私らしく演技することができ、個人で初出場初優勝という輝かしい結果を残すことができました。しかし、大会後は股関節の痛みが普通のものではなくなっていました。それまでは肉離れと言われていた私の足は少しひきずるような感じでした。しか歩けなくなってしまう、大

きな病院で検査をすることにしました。MRIやレントゲン、血液検査などをし、私の足は私が思っていた以上に大変な状態になっていることがわかりました。大腿骨の骨頭が潰れてその周辺にはたくさん水の溜まっているのがMRIの画像で私にもわかりました。先生は子供がかかる病気で骨頭が壊死してしまうペルテスという病気かもしれないとおっしゃいましたが、私の年齢では前例がなく、結局その時にはわからないままこれ以上骨を潰さないためにも車イスと松葉杖を使って生活をするように言われました。つい昨日までは元気に自分の足で歩いて学校へ行き新体操の練習もやっていたのに、それどころか試合にまで出場していたというのに、その日は突然やってきました。大きな波にのみ込まれそうになりながら私の四本足の生活が始まりました。

四歳から新体操を始め、十年余新体操だけを見つめてきました。学校では大会の結果を知って皆がおめでとうといってくれる中、車イスに乗っている私がそこにいました。不思議でした。しかしこの状態になったことで、今まで見ていたようで見えていなかったものが沢山あるということに気が始めました。人の温かい心にも何度も触れました。人は決して一人で生きていくものではありません。知っていたつもりでしたが身をもって理解

できたのです。私は色々な人に助けってもらって支えても  
らって生きています。そんな私をいつも温かく見守って  
くれている家族。当たり前だと思っていたことが本当は  
こんなにも当たり前ではなかったのです。今回のことで  
私は母の心がとても頑丈だということを知りました。私  
もそうなりたいと思いました。母は私に、試練だと思っ  
ていたことが実は経験なのだを教えてくれました。だか  
ら私は笑顔でいられます。私は今の自分が大好きです。  
五軒目の病院でようやく大腿骨骨頭の骨折だということ  
がわかりました。あきらめないで今できる精一杯のこと  
をやり続け、また新体操に復帰したいと思います。その  
時が新しい佐々木アヤ香のスタートです。